

第30回 大和川流域総合治水対策協議会 議事概要

開催日時：平成30年5月17日（木） 14:00～15:30

開催場所：ホテルリガーレ春日野（飛鳥の間）

出席者：近畿地方整備局（局長、企画部長、河川部長）、奈良県（知事、総務部長、農林部長、県土マネジメント部長）、出席 24 自治体（奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町、大淀町）

《議事概要》

昨年の台風 21 号による被害や、流域対策の進捗状況、奈良県において検討が進められている新たな内水対策について説明を行い、知事・首長による意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

○あいさつ

<局長>

- ・ 中小河川の洪水が多くなっており、住民避難に役立つ危機管理型水位計の設置が必要である。奈良県で 66 ヶ所、国で 41 ヶ所設置していく。

<知事>

- ・ 総合治水条例を 4 月 1 日から施行している。
- ・ これまで、河川(内水対策)の予算を取っていなかった。今後補正予算を取り、「奈良県平成緊急内水対策事業」を進めていきたい。今日はそのキックオフができたと思う。
- ・ 内水は県が中心になって一生懸命やることを宣言していきたい。
- ・ 床上浸水解消に 2 年、更に床下浸水解消は 3 年を目標に内水対策を推進していく。

○新たな「ためる対策」について

<大和高田市>

- ・ 4 箇所目の貯留施設を作る予定だが、大和高田市は内水が非常に弱いところなので、今後の内水対策の第 1 号になることを期待している。

<知事>

- ・ 内水対策の適地は、被害がある箇所、川へ自然流下で流れる箇所が良い。
- ・ 内水対策は、適地、対策効果、用地買収の 3 つが課題である。

<葛城市>

- ・ 支川へポンプアップすれば内水は解消できるが下流が危なくなることは問題であると思っている。
- ・ ため池の有効利用を考えているが、治水のための水位調整をしたとき、水位回復が問題となり、吉野川分水等の供給の約束などがなければ農家の理解が得られない。

- ・ 今ある物で、一番低コストで最大限の効果があることをしていくべき。

<知事>

- ・ ため池については、完全な治水利用として平常時は空にして運動場などに利用することも考えられる。
- ・ 市域、行政区域ごとの治水対策ではなく流域ごとの対策を行いたいと考えている。

<田原本町>

- ・ 田原本町には浸水常襲地域が多数点在し、台風 21 号でも多く浸水しており内水対策が必要であると思っている。
- ・ 平成 24 年からは、水田貯留を進めているが限界もある。
- ・ 寺川流域では、内水対策として樋門整備とため池治水整備を進めており、今後も重点的、計画的に対策を進めていく計画をしているので、国、県の支援をお願いしたい。

<知事>

- ・ 内水対策に積極的な姿勢を示していただき感謝している。

<王寺町>

- ・ 内水対策を行うための適地がなかなかないのが現状であるが、ため池の有効活用等いろんな手法を検討したい。

<知事>

- ・ 河川の管理区間が国・県・市町村で分かれていても、行政ごとではなく流域ごとで一体的に治水対策を行う必要がある。
- ・ 治水だけでなく川辺の環境も一緒に考えられたらと思う。

<広陵町>

- ・ 流域の上流でためるなど、バランス良く流域全体で対策することが重要である。
- ・ 流域全体を見て、どのように貯める施設を配置するか。コストの掛からない手法を県で研究してほしい。

<知事>

- ・ 内水施設は自然排水できる箇所（ため池）が理想である。そういう所を一緒に探せたらと思う。

<檀原市>

- ・ 上流で貯めることに対して責任は感じており、しっかりと頑張っていきたい。

<川西町>

- ・ それぞれの市町の事情は、外からはわからないので、流域の上下流で議論するには、まずは情報共有していくことが必要。
- ・ ため池の治水利用には農家の抵抗が強いので、担当者レベルでは限界がある。首長の本気度が問われていると思う。

<知事>

- ・ 支川流域毎のミニ協議会で情報共有して、合理的な対策案を作ることが大切。

- ・ 浸水するようところが宅地化されるなど土地利用について都市計画の課題となっている。

<知事>

- ・ 奈良県平成緊急内水対策事業が協議会で了解されたと、取り扱いさせて頂く。

○総括

<知事>

- ・ 県も市町村も補正予算をほとんど利用してこなかった。
- ・ 補正予算は地区によってかなりの差があるが、事前の準備の違いも理由の1つである。事前準備をしっかり行い補正予算を積極的に取ってほしい。

<局長>

- ・ 今後の内水対策については、整備局としても出来る限りの知恵を提供するつもりである。内水対策を実現させてほしい。

以上